

畜産試験場だより

No.17

ごあいさつ

栃木県畜産試験場長 藤田 繁

早いもので、今年も1ヶ月が経過してしまいました。

皆様方におかれましては、特に今年は21世紀の幕があいた記念すべき年であり、心新たに明るい期待を持って新年をお迎えになったことと思います。

現代は、従来10~20年、長いものでは100年単位かかった変化が、最近では、1~2年で変わってしまう大きな激しい変化の時代であり、又、作れば売れる“物不足の時代”から、安全・良質・環境に配慮した物を作らないと売れない“物あまりの時代”であり、競争の激しい時代になっており、21世紀では、増々この傾向は強くなるものと予想されております。

畜産経営に於いても同じであり、安全・良質・環境等条件を満たした収益性の高い経営の確立が課題となっております。畜産試験場に於いても、

スーパー和牛の受精卵の有効活用による「とちぎ和牛」の、より一層の銘柄牛としての定着と増産

系統豚「トチギL」を基礎とした三元交雑肉豚「とちぎLaLaポーク」が県内どこでも消費者が買うことができるような普及

銘柄肉鶏「栃木しゃも」の定着と普及

畜産環境対策

などを主な試験研究課題とし、試験研究成果を通じ、収益性の高い畜産経営の確立など本県畜産のさらなる発展に貢献したいと職員一同がんばってまいります。今回の畜産試験場だよりは、現在行われて試験内容を中心に掲載しましたので、ぜひ御通読いただきまして、旧来にも増して御理解、御支援を賜りますようお願いいたします。

平和な明るい21世紀を祈念し、御挨拶といたします。

